

小6

国語

読解

こたえ

なまえ

読解 とどかなかった手紙

がっ ちに

次の文章を読んで、問いに答えましょう。

- ① さくらが見つけた手紙は、だれにあてたものですか。 ア
- ア 転校していった友だち イ 新しい町の友だち ウ 自分自身
- ② 手紙を出せなかった理由を、「」の中からぬき出しましょう。(16字)
- もう 忘れられて いる かもしれない
- ③ さくらが手紙をかばんに入れたのはなぜですか。 イ
- ア 箱がいっぱいだったから イ すぐに出すつもりだから ウ 宝物だから
- ④ 「三年おくれでも、きつと、おくれないうちはいい」から、さくらのどんな気持ちが分かりますか。
- お くれ ても 気持ち を 伝え よう と 決めた 前向き さ

引つこしの前の日、さくらは机の引き出しの奥から、一通の手紙を見つけた。白い封筒には、「りこへ」と自分の字で書いてある。三年前、転校していった友だちに書いたまま、出せなかった手紙だった。

封を開けると、小さな字がならんでいた。「りこがいなくなつて、学校がつまらない。でも、りこが教えてくれたなわとびの技、やつとできるようになったよ。最後の一行は、消しゴムで何度も消したあとがあった。

さくらは、手紙を書いたことを思い出した。出そうと思うたびに、「もう忘れられているかもしれない」という考えが頭をよぎり、引き出しにもどしてしまつたのだ。

明日、さくらは新しい町へ行く。今度は、自分が「転校していく側」になる。さくらは手紙を封筒にもどし、荷物の箱ではなく、自分のかばんに入れた。

新しい町に着いたら、まずこの手紙を出そう。三年おくれでも、きつと、おくれないうちはいい。

